

## ホームドアの整備促進の強化等を求める意見書

鉄道駅のホームにおける障害者や高齢者の転落事故が後を絶たないため、ホームドアの整備促進が求められている中、本年8月15日、東京メトロ銀座線青山一丁目駅ホームにおいて盲導犬を連れた男性が線路に転落し、死亡するという痛ましい事故が発生した。

国土交通省によると、視覚障害者がホームから転落した事故は、平成21年度の38件から増え続けており、平成24年度には92件になった。また、日本盲人会連合の調査でも、回答した視覚障害者のうち、約4割がホームからの転落経験があると答え、6割が転落しそうになったことがあると答えている。

視覚障害者等をはじめとしたすべての鉄道駅利用者のホームからの転落を防止するためには、ホームドアの整備とともに、鉄道駅の危険箇所の改善が有効である。

しかし、ホームドアについては、旅客鉄道会社が技術面や費用面で課題を抱えていることなどから、整備が進んでいない実態があり、国土交通省も、本年3月末現在で、1日10万人以上が利用する251駅のうち、可動式ホームドアが設置されているのは77駅で約3割にとどまっていると公表している。

また、危険箇所については、視覚障害者の移動を支援する点字ブロックが柱などによってふさがれている駅や、ホームの内側がどこか判別できる内方線付き点状ブロックが未設置となっている駅が都内でも確認されている。

一方、政府においては、平成27年2月に策定した「交通政策基本計画」で、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年度までに、ホームドアを800駅へ設置する目標を定めている。

しかしながら、悲惨な事故をなくすためには、「交通政策基本計画」に掲げるホームドアの整備目標の前倒しや、ホームドアの設置にかかる技術開発支援などの総合的な対策を講ずるとともに、鉄道駅の危険箇所について、早急に調査と改善を図る必要がある。

よって、本区議会は、国会及び政府並びに東京都に対し、ホームからの転落事故防止のために、ホームドアの整備促進の強化等の対策を講ずるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

平成28年10月24日

江東区議会議長 堀川幸志

衆議院議長  
参議院議長  
内閣総理大臣  
国土交通大臣  
東京都知事

あて